

わが街珍百景



長田 克也

OSADA Katsuya

(公財)水道技術研究センター
管路技術部長
(本誌編集委員)

千葉県船橋市のJR西船橋駅からおよそ1.5km北へ向かうと、何やら変わった地形（道路）に出くわします。そこは船橋市行田という地名で、JRA中山競馬場の南東に位置し、私はこの地に移り住んでから30年余り経っています。初めて訪れる知人からは、「カーナビの画面に丸い道路が出てきたのでびっくりした。」「迷って2周しちゃった。」など一様に「珍しい道路だね。」と言われます。

この円周道路は、直径が約700mで1周が2km。何故このような道路になったのか、私も引っ越した当時から疑問に思っており、その時の知人に聞いたところ、「あそこには無線塔があったんだよ。公園内には記念碑もあるよ。」との答えでした。また、当時から市の広報誌や新聞などにも取り上げられたことがあり、見聞を広めることができました。

そこで、読者の皆様に無線塔のお話をさせていただきます。

無線の通信は日露戦争の後、連合艦隊の行動範囲が拡大すると、さらに遠方まで行う必要があり、そこで大正4年に「海軍無線電信所船橋送信所」がこの地に設置されました。敷地は当時から円形でその中央に高さ200mの鉄塔がそびえ立ち、世界でも屈

指の無線塔だったようです。大正12年の関東大震災の時には、東京都心の通信は壊滅状態になりましたが、この無線所は横浜港に停泊中の船舶から被害情報を受信し、国内外に救援電波を出して多くの人命を助けることができたそうです。その後も昭和の初期に複数の長波短波用の無線塔が設置され、この地は無線塔群で有名になったとされています。

歴史的に有名な出来事としては、太平洋戦争時にこの無線塔から真珠湾攻撃部隊へ「ニイタカヤマノボレ1208」の暗号電文を送信したことです。ニイタカヤマ（新高山）は台湾の山の名前で当時の日本の最高峰。ご存じの通り1208は12月8日のことで、「12月8日午前0時をもって真珠湾攻撃を開始せよ」という意味です。終戦になると進駐軍により接收され、昭和41年に日本へ返還されましたが、昭和46年5月に解体され無線電信所の歴史は幕を閉じました。その後は無線基地の跡地が円形だったため、北と南の部分に学校や団地が建てられ、東西にふたつの扇を広げたような公園も整備されました。その中央部に「船橋無線塔記念碑」があり、開設当時から発信した内容などが以下のとおり記され、我が国の歴史を感じ取ることができます。



船橋市行田地区（地図）

【船橋無線塔記念碑（原文）】

ここ下総台地の一角にかつて無線塔が聳えていた。
大正4年（1915年）に船橋海軍無線電信所が創設された。
大正5年にはハワイ中継でアメリカのウイルソン大統領と日本の大正天皇とで電波の交信があった。
広く平和的に利用されたのでフナバシの地名がはじめて世界地図に書き込まれた。
大正12年（1923年）の関東大震災の時に救援電波を出して多くの人を助けた。
昭和16年（1941年）の頃には長波短波の用の大アンテナ群が完成し太平洋戦争開幕を告げる「ニイタカヤマノボレ1208」の電波もここから出た。
船橋のシンボルとして市民に親しまれていたが昭和46年（1971年）5月解体されて栄光の歴史を閉じた。



無線塔記念碑

跡地内に造られた公園は、県立行田公園と呼ばれ面積は約12ヘクタール。東区域には中央に大きな芝生広場、一周約1kmのサイクリングコースや子ども向け遊具のあるワンパク広場などがあります。サイクリングコースは、たくさんの樹木に覆われ、今ではウォーキングやジョギング、ペットの散歩コースとなっており、昼夜を問わず多くの人達で賑わいを見せています。西区域には水生植物のある庭園や夏期の明るい時間帯には水が流されるカナルと呼ばれる浅い水路があり、老若男女を問わず市民の憩いの場になっています。また夏には「こども祭り」が開催され、周辺の自治会やサークル単位で屋台を出し合い、超アットホームな雰囲気子どものみならず大人も楽しむことができます。

続いての紹介は、円周道路の南側に差し掛かると巨大なタンク、見ようによってはクラゲのお化けのような建物を目にします。このタンクは、千葉県水道局が保有する「船橋高架水槽」と呼ばれているものです。私の現在の職場は水道技術研究センターですが、元々の所属は千葉県水道局の職員であり、出向という形で管路技術の研究に携わっています。高架水槽は、江戸川の水を松戸市にある栗山浄水場で水道水を造り、その一部の水をこの水槽に入れて船橋市内の周辺地区に給水しています。

容量は5,000立方メートルで、高さが約30mにおよび近くで見るとかなりの大きさに圧倒されます。我が家は円形道路の敷地内にありますが、家を購入



行田公園



船橋高架水槽

するまでは、高架水槽の用地内に建っていた独身寮と社宅暮らしだったので、目にしない日はありませんでした。

また、私が足しげく通う中山競馬場からも良く見えるので、テレビ中継の際は必ずと言っていいほど映ります。馬好きの方はこちらをご覧ください(笑)。

このようにわが街は、丸い道路と巨大なタンクが有名で、土地勘のある人にどちらかの単語を出せば、すぐに所在が分かってもらえます。ここ行田地区は、広い公園内に芝生や花、樹木がバランスよく共存しているせいか、四季折々を感じることができ、夏の夜でも心地よい風が通りエアコンを使用する日はごく僅かです。

この地を珍百景と題しましたが、我が国の戦時中、あるいは大正時代の歴史を感じる街です。お近くまでお越しの際はぜひお立ち寄りください。